

平成26年度 学校評価に係る学校関係者評価書

学校名 北海道おといねっぶ美術工芸高等学校

1 本年度の重点目標

2 本年度の経営方針

- (1) 基本的な生活習慣の確立と学習習慣を定着させる。
- (2) 生徒一人ひとりの個性を生かした造形教育を推進する。
- (3) 学校生活・寄宿舎生活をととして、キャリア教育を推進し社会性を育成する。
- (4) 魅力ある教育活動の発展充実を目指し研修や実践に努める。

- (1) 創作活動をととして学ぶ喜びを体験し、可能性を引き出し伸ばし、確かな力を付ける。
- (2) 他を思い理解し、共に学び感動が溢れる学校生活をととして、豊かな人間性を育成する。
- (3) 全道唯一の工芸科として魅力ある教育活動を実践し、質の高い美術工芸教育を推進する。
- (4) 生徒・保護者・地域の信頼と期待に応える、地域に根ざし開かれた学校づくりを推進する。

学校関係者評価委員会  
学校評議員

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校経営	(1) 創造力を育成し人間力を高める教育を実践し、夢を語りあい活力を育みあう学校づくりを推進する。	B	B	・PDCAサイクルを定着させ、反省を次年度に生かす仕組みと確立する。 ・分掌体制の改善	A	A
	(2) 高大連携教育、国際理解教育、地域連携教育等により教育の質的向上を図る。	B	B			
評価者の意見等 ・学校の向上にもう一歩きびしさが必要。						
学習指導	(1) 生徒一人ひとりの実態に即した学習指導により、基礎的基本的学力の定着と向上をさせる。	B	B	・教科研修時間の確保 ・教務主導による学習指導の底上げに向けた協働的取り組み	A	A
	(2) 多様な生徒に対応する教材の工夫改善や指導方法・評価方法の工夫により、生徒の自ら学ぶ意欲を喚起して能力を伸ばす。	B	B			
	(3) 高大連携教育や国際理解教育の推進を図り、美術工芸教育・普通科教育の深化に努める。	B	B			
	(4) 情報教育や図書教育の充実を図り、豊かな人間性の育成に努める。	B	B			
評価者の意見等						
生徒指導	(1) 全教職員の共通理解と実践により、基本的な生活習慣の定着に努める。	C	C	・生徒の自主的考察、自主的解決を促す取り組み ・指導方針についての共通理解の深化と協働体制の確立	A	A
	(2) 地域の特色を生かした特別活動の充実を図り、生徒の自主性や自律性の育成に努める。	B	B			
	(3) 教育相談活動を充実し、多面的な生徒理解を深め、いじめ等も含めた問題の早期発見・対応を実践する。	B	B			
評価者の意見等 ・生徒の自主性にあまり目を向けては、成果はいかがなものか。						
進路指導	(1) 進路意識を高め、キャリア発達課題の達成を目指し、自己実現に向けて努力する態度を育成する。	B	B	・1年次からの系列的な指導体制の確立と共通理解 ・協働的取り組みの推進。	A	A
	(2) 自己理解を深め、個性や能力・適性に応じて進路目標を設定する力を育成する。	B	B			
	(3) 個に応じた職場開拓や情報収集・発信を図り、進路実現を達成させる。	B	B			
評価者の意見等 ・本校の特性を見ますと、とても良い成果が出ているのではないかと。						
健康安全指導	(1) 保健教育活動を充実し、個々の生徒の状況を的確に把握し、生命を大切にし、主体的に心身を鍛える生徒を育成する。	B	B	・生徒の参画を伴う、健康教育や安全教育の推進。	A	A
	(2) 校内外の清掃美化や施設の保全を通して、環境教育を行いながら、快適な教育環境づくりを推進する。	B	B			
	(3) 全教育活動をととして安全教育を徹底させ、適切な生活行動ができるよう指導する。	B	B			
評価者の意見等						
組織運営	(1) 日常的・組織的な連携を緊密化して、協働体制を確立する。	C	C	・前年踏襲にない業務の点検 ・業務分担の改善を伴う協働体制の確立 ・主導を明確にしつつも学校全体で取り組む意識の共有 ・情報セキュリティーの見直しと意識共有	B	A
	(2) 学校課題の明確化・共有化をふまえ、前例踏襲に陥らずに工夫改善をはかり、各取組を前進させる。	C	C			
	(3) 危機管理意識を醸成する。	B	C			
評価者の意見等 ・危機管理意識とは何か。						

研修	(1) 専門性と資質能力の向上のために研修活動を充実させ、授業改善や実践力を向上させる。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修時間確保の工夫</li> <li>・個別研修における、研修内容の共有</li> <li>・個々の、研修意識の高揚</li> </ul>	A	A
	(2) 服務規律保持・倫理観について、意識を向上する。	B	B			
	(3) 個々の教員のスキルを向上する。	B	C			
評価者の意見等	・個別の研修も良いが、行事化された全体研修もあり得る。					
保護者、地域、住民等との連携	(1) 保護者や地域に対して、本校の取り組みを十分に情報発信する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の基本方針の確認と共有。</li> </ul>	B	B
	(2) 保護者や地域からの意見を聴き、積極的に学校改善に役立てる。	B	B			
	(3) 保護者との連携を図りながら、充実したPTA活動を展開する。	B	B			
評価者の意見等	・地域との受け込みを考えるのであれば、もう一度、方法論を練り直すべきか。					

#### 4 自己評価における特記事項（総合的な改善方針）

- ・協働体制の確立。分掌主導であっても、取り組みは学校全体で行う意識で、情報共有を確実にして、全員が全ての取り組みに参画意識を持つ。
- ・工芸実習などにおける、ケガへの対応指導の早期の実施。
- ・長期休業前の各種文書の発送方法や発送時期の見直し。（急ぐものと急がないものの分類も含む）
- ・生徒に対応する時間の確保。面談期間の設定についての審議
- ・生徒対応における、担任の機動力確保の工夫
- ・工芸科の技術研修や技術継承の検討
- ・準備期間も織り込んだ、年間行事の作成と共有

#### 5 学校関係者評価における特記事項

- ・自己評価における特記事項も具体的な改善策が多く記されており、これらを共有して前へお進みいただければと存じます。
- ・産地 旭川市では工芸センター（旧工芸指導所）主導で若手技術者向け研修会を、年テーマを決めて数回 行っている。参考になるかもしれない。
- ・進路指導には、本校の特性を鑑みますと、良い成果が出ていると思われますので、もう少し評価が上がっても良いのではないかと。それがベースとなって持続的な成果に結びつく野ではないでしょうか。
- ・地域の受け込みには、もう一工夫があって良い。生徒の考えと教師（学校）の想いが、まだまだ一致していないのではないかと。
- ・寮の増改築を見ると、本校の将来の姿も見えてくるものがあり、その経営評価にも反映させるべきと考える。
- ・生徒 保護者とも学校への評価が高いことを心強く思います。
- ・組織運営 研修などへの自己評価が低いように思います。お忙しいのでしょうか。
- ・美術工芸高校と言うことで、各種コンクールのようなものが評価の対象になりがちですが、高校教育ですので、それだけでない、目に見えない部分にも目配りが大切でしょう。（そうされているとは思いますが。）